

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 生活費の不安のない老後を送れる社会にするために（40分）</p> <p>10年ほど前から、ワーキングプアと呼ばれる新たな貧困層が社会問題になり、ひいては、子どもの貧困が増えている大きな要因ともなっています。</p> <p>そして、昨年6月に起きた71歳の老人による新幹線車内での焼身自殺で、私たちは高齢者の貧困問題を目の当たりにしました。</p> <p>時期を同じくして、一億総老後崩壊の衝撃というショッキングなサブタイトルで出版された藤田孝典さんの「下流老人」は、老後の貧困が一部の特殊な人でなく、平均的なサラリーマン生活を送って来た人にも近い将来現実になりつつあるととえています。</p> <p>高齢化が進むことで、これまで以上に多くの方が、自分の老後について深刻に考えるようになっていきます。</p> <p>今年内閣府が発表した「国民生活に関する世論調査」によれば、3人に2人が生活に不安を感じていると回答しています。</p> <p>不安を感じていることとして「老後の生活設計」を挙げた人が54.0%ともっとも多く、続いて自分や家族の健康、今後の収入や資産の見通しがあげられています。</p> <p>政府に求める政策については、「医療・年金等の社会保障の整備」(64.4%)がトップになっています。</p> <p>格差が拡大し、老後を年金に頼るのは厳しいと多くの方が感じているのではないのでしょうか。</p> <p>老後の不安はどうすれば解消されるのか、当市の施策をうかがいます。</p> <p>(1) 老後の不安の把握 (2) 老後の生活設計についての相談窓口 (3) 高齢者の就労 (4) 無料低額診療事業</p>	市長

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>2 介護が必要になっても今までの生活を続けるために（20分）</p> <p>60歳以上の人を対象に「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」を内閣府が行っています。</p> <p>その中の「虚弱化したときの居住形態」は、介護が必要になった時、どこであなたは生活したいですか？という質問です。</p> <p>「現在の住居に、とくに改造などはせずそのまま住み続けたい」が最も高く、次いで、「現在の住宅を改造し住みやすくする」、「介護を受けられる特別養護老人ホームなどの施設に入居する」の順となっています。安心できる家で、今まで通りの生活を続けたいと感じる人が、高齢者のなかでも多いことがわかります。平成7年から5年ごとに行われていますが、この傾向はあまり変わらないということです。</p> <p>でも現実には、介護が必要になったとき、現在利用できる介護サービスだけでは家での生活を維持できなかつたり、在宅介護には向いていない家であるなどから、住み慣れた家での生活を諦めるという方も多いのではないのでしょうか。</p> <p>介護保険制度が施設から在宅へと動き始め、地域包括ケアシステムの構築に向けて、協議体で多岐にわたる事柄が話し合われていると思います。その中で、高齢者の気持ちはどのように反映されているのでしょうか。</p> <p>介護が必要になっても今までの生活を続けるために、どのような取組ができるのか市の考えをうかがいます。</p> <p>(1) 高齢者の気持ちの把握 (2) 在宅で生活を続けるためにできること (3) 地域包括ケアシステムへの反映 (4) 在宅老人ホームの取組</p>	市長